



建荷協長野支部通信

第5巻 第5号

発行日 平成30年2月2日

1 全国支部長会議、事務局長会議開催される

1月25日、ホテルグランドパレス(東京都)において、全国支部長会議が開催されました。同会議には小林支部長が出席され、事務局長が随行しました。

支部長会議では、厚生労働省、経済産業省の来賓あいさつの後、協会の現況について報告があり、会員数は平成29年12月現在4,286社、対前年比26社減となっております。事業不振・業務廃止、資格者不足等が主な要因です。また、検査済標章、出荷標章はともに増加しており、検査記録表の頒布は若干減少しています。そして、資格取得研修、能力向上教育等研修・教育は回数・受講者数ともに若干ではありますが増加しています。

次に、平成30年度事業計画(素案)の説明があり、「前年度に引き続き、労働災害の防止を目的として、各種事業を本

部・支部一体化の下に展開する」としています。

例年だと外部講師による講演があるところ、今年は「協会全体の資産の現状と対応について」建荷協の事務局から報告がありました。内容は、先般10月16日に内閣府の立ち入り等の外部監査を受けたところ、是正改善を求められたことにより、経理をはじめとして緊急に対策を講ずる必要が出てきたというものです。公益目的事業会計の単年度収支相償の原則にかかると問題であり、今後相当大掛かりな変更が必要となります。

翌26日には同ホテルで事務局長会議が開催され、各事業・業務おける変更点・留意事項について各部から説明がありましたが、上記にかかる経理関係に関する質問は時間切れとなり、不満が残りました。

2 地域協議会会長会議(第2回)開催される

1月23日、ホテル国際21において、本年度第2回の地域協議会会長・巡回指導員拡大会議が開催されました。

11月の強調月間を中心に、各地域協議会で自主的に特自検パトロールを実施しましたが、その結果の報告と意見交換を行いました。このパトロールは本部巡回指導とも連携しており巡回指導員も同行しております。

94の事業場に対して特自検パトロールを実施し、検査業が82、事業内が12でした。パトロールの延べ参加人数は63人で、巡回指導員は延べ14人が同行しまし

た。また、労働基準監督署からは3署から同行いただきました。

結果、「記録表の記入不備」が検査業で2割、事業内で6割以上見とめられ、「能力向上教育等研修・教育の未受講者」は7~8割に及んでおり、記録表の記入不備が多い状況に鑑み、研修教育の受講が望まれます。また、「法定検査機器の設置・保守点検」について、検査業で1~2割、事業内で6割に不十分な状態が見とめられ、改善をお願いしました。

検査機器に著しい不備がある場合、直してもらうにはどうすればよいか提起があり



目次:

全国支部長会議、事務局長会議開催される	1
地域協議会会長会議(第2回)開催される	2
第3回研修委員会開催される	3
リスクアセスメント検討小委員会開催	4
事務局だより	5

ハイライト:

- **ハンカーボン記録用紙**の申込みを受け付けております。**2月16日(金)がメ**切になっております。早めにお申し込みください。申込書はホームページ <http://www.sacl-nagano.jp> からダウンロードできます。

ました。パトロール、巡回指導には行政のような権限はないが、必要に応じ文書で改善をお願いする等災害の未然防止に理解・協力を強く求め、コンプライアンス(社会的要請への適応)の確保に努めることがその使命と考えます。

節分には「福は内 鬼は外」と声を出しながら福豆を撒いて年の数だけ豆を食べる厄除けのおまじないをする、というのが私たちの知っている節分であった。

ところが最近、節分には「恵方巻」というのり巻きを、棒のまま、ある方角を向いて食べるという風習が宣伝されて広がっているという。

そこでウィキペディアで調べてみたら、「恵方巻」は1989年に、広島市のとあるセブンイレブンが仕掛けたことにより全国に広がり、2000年代以降急速に広がったとのこと。

考えてみると、豆まきの風習もチャッカリしたきっかけから始まって、こじつけのような尾ひれを付けながら広がり、長年続けられて伝統となったものかもしれない。

「恵方巻」は伝統になれるだろうか。

「聞きたくないことは聞こえない」

Q&Aコーナー

Q: 電子制御式エンジンに異常がない場合の記録表記入方法で、「チェックを入れるべきだ」という人と「何も記入しなくていい」という人がいますが、どちらが正しいでしょうか？

A: 検査記録表の記入要領では、異常がない場合には「何も記入しない」ことになっていますが、電子制御式であるのかどうかはつきりしません。長野県支部の研修委員会では、電子制御式であることを確認したらチェックを入れておいた方がより明確になるので、チェック(✓)を入れるよう指導することを申し合わせております。

ただし、チェックを入れなくても間違いではありません。

3 第3回研修委員会開催される

12月8日、油やにおいて本年度第3回研修委員会が開催されました。

平成29年度に実施した研修の報告では、受講者合計333名となり、昨年より増加しました。事業内検査者実務研修へ多数ご参加いただきました。

次に、平成30年度の研修方針と研修計画が提案され、例年と同じ並びで実施することが了承されました。若干の能力向上教育や実務研修を松本と長野の開催場所を入れ替えて実施することとしております。

4 リスクアセスメント検討小委員会開催

1月18日、建荷協長野県支部事務局において、平成30年の第1回「危険の見える化(リスクアセスメント)」検討小委員会を開催しました。

5 事務局だより

昨年の暮、新幹線台車が破断寸前で亀裂が見つかり、運輸安全委員会が重大インシデントと認定した。博多駅を東京に向け出発したのぞみ34号は、小倉を発車後焦げたような異臭やもやを車内で確認。岡山でJR西の保守担当社員3人が乗り込み「床下を点検すべきだ」との意見も出たが、東京指令所は「走行に支障はない」と判断し、新大阪でJR西の乗務員はJR東海の乗務員に「異常はない」と引き継いだ。京都を発車後再び異臭を発生、名古屋で車両を点検、運休したという経過だ。

問題はいくつもある。①どうして亀裂が入ったか、②定期点検で亀裂はなぜ発見できなかったのか、③異常を何回も確認したのになぜ停車して点検を行わなかったか④保守担当の「点検すべきだ」の意見がなぜ聞き入れられなかったか⑤なぜ「異常はない」と運行を引き継いだのか、である。

①、②は今後調べてもらうとし

す。

また、地域協議会の特自検パトロールに同行して行った巡回指導について、巡回指導員の報告もなされました。

さらに、高所作業車の主任講師が平成30年度で定年となるため、後任の講師の育成・推薦が急がれます。会員各社には、引き続き各種車両の研修講師・巡回指導員の育成・確保にご協力いただくようお願いいたします。

①参加者を増やすため、講習時間を半日程度にする等を検討する②危険の見える化(リスクアセスメント)の従来の基本を新しい考え方に変更し、組み立てなおすこととしました。

て、③、④、⑤の問題である。保安担当者は「床下を点検したい」と司令員に打診したが、司令員は「走行に支障はあるのか」と問い、「そこまでいかない。見ていないので現象がわからない」との返事に「支障なし」と受け取った。さらに、保安担当者は「安全をとって新大阪で床下をやるか」と提案したが、司令員は上司に報告を求められ、耳から受話器を離し、それを聞き逃したという。

司令員に走行に関する権限・判断が集中しており、定時運行が優先されていた。司令員には定時運行を乱すことになる保安担当者の安全提言は聞こえなかった。‘聞きたくないことは聞こえない’ように。そして現場は責任を回避するように「異常なし」で運行を引き継いだ。これは私見であるが。

人身事故にならなくて幸いであつた。類似のことが起きないように根本的な対策を望む。